

令和6年6月3日

報道機関 各位

## 労働者の問題飲酒 週3回以上飲酒、1回2合以上飲酒、不利な仕事の特性がリスク 日本公務員研究

### ■ ポイント

- ・1,535名の地方公務員を5年間追跡したところ、男女ともに、週に3回以上飲酒する人や1回に2合以上飲酒する人は、その後に問題飲酒が発生しやすいことが分かりました。
- ・男性では、職位が低い人や交替勤務がある人に、女性では、仕事のパフォーマンスに関する自己評価が低い人に、問題飲酒が発生しやすいことが分かりました。
- ・リスクの高い人に早期から介入することで、問題飲酒を予防できる可能性があります。

### ■ 概要

富山大学学術研究部医学系の茂野敬講師、立瀬剛志助教、関根道和教授らの研究グループは、労働者の問題飲酒の発生に影響を与える要因を、仕事や家庭生活、社会活動の観点から、追跡調査により明らかにしました。

その結果、男女共に、不適切な飲酒習慣がある人や不利な仕事の特性を持つ人に問題飲酒が多いことが分かりました。このことから、労働者の問題飲酒を予防するためには、節度のある適切な飲酒に関する知識の提供やその周知を目的とした健康教育の実施、定期健康診断時に不利な仕事の特性を持つ労働者の飲酒習慣を把握し、問題飲酒のスクリーニングを行うことで早期からの介入を行うなどの支援的な職場づくりやその改善を図る取り組みが重要であることが示唆されました。

研究成果は、国際誌 Industrial Health に2024年5月15日（水）に掲載されました。

### ■ 研究の背景

飲酒は多くの国で文化的、宗教的、社会的慣習の一部となっていますが、問題飲酒によって引き起こされる疾病の世界的負担は莫大であるとの報告があります。日本においては、アルコール乱用または依存症といった問題飲酒の生涯有病率が過去10年間で約2倍に増加しており、問題飲酒によるがんや脳血管疾患による死亡リスクの増加も報告されています。また、日本における問題飲酒による労働損失の推計が約2兆5千億円/年ということが明らかとなっていることから、労働者の問題飲酒の予防への取り組みが重要な課題となっています。

先行研究において、仕事の特性や家庭生活、社会活動の有無と労働者の問題飲酒が関係することが示されています。しかし、それらの研究の多くは横断的な調査であり、それらの要因が将来的に問題飲酒の原因となるのか因果関係の証明には至っていません。また、労働者

を対象として、仕事のストレスや仕事のパフォーマンス、仕事と家庭のバランス、家庭以外での他者との関わりを含めて、男女別に問題飲酒のリスク要因に関する追跡調査はありませんでした。

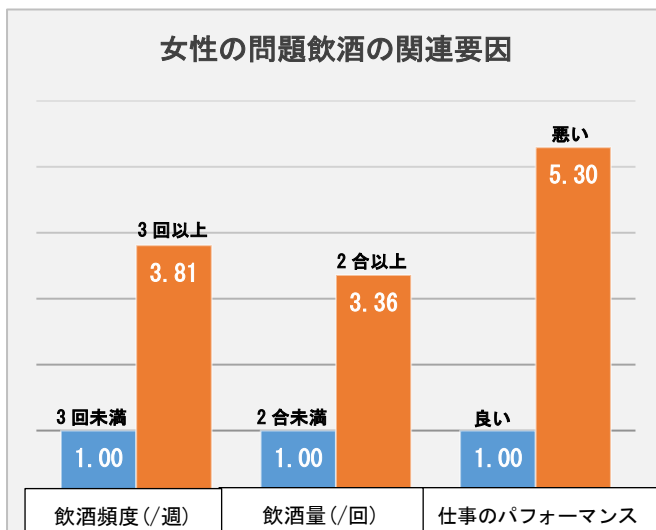
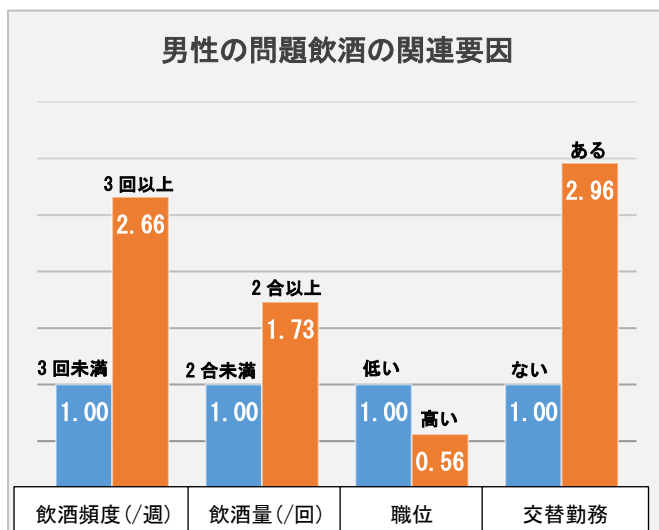
### ■研究の内容・成果

2014年の日本公務員研究<sup>※2</sup>参加者4,552名のうち、2014年時点で問題飲酒を認めた参加者を除いて、2019年の調査で追跡可能で分析に必要な調査項目に回答のあった1,535名分のデータを分析対象として研究を行いました。調査項目は、性別や年齢、飲酒習慣（飲酒頻度や飲酒量、問題飲酒の有無）、仕事の特性（職位や交替勤務の有無、仕事のストレス主観的な仕事のパフォーマンスなど）、ワーク・ライフ・バランス（婚姻状況や仕事と家庭のバランス）、社会活動（知人と関わる頻度や親しい友人の数など）の計19項目としました。

分析の結果、2014年から2019年の5年間における問題飲酒の累積発生率は男性で9.6%（1.92%/年）、女性で5.8%（1.16%/年）でした。男女共に、「週に3回以上の飲酒習慣がある人」と「1回に2合以上飲酒する人」は、それ未満の人に比べて男性で各々2.66倍と1.73倍、女性で各々3.81倍と3.36倍、5年後の問題飲酒が多いことが明らかとなりました。また、男性においては、職位が高い人（中間管理職・管理職）は、職位が低い人（一般職員）に比べて0.56倍、5年後の問題飲酒が少なく、交替勤務がある人は、ない人に比べて2.96倍、5年後の問題飲酒が多いことが明らかとなりました。女性においては、主観的な仕事のパフォーマンスが悪い人は、良い人に比べて5.30倍、5年後の問題飲酒が多いことが明らかとなりました。

図表. 問題飲酒のリスク要因

男性	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週に3回以上の飲酒</li> <li>・ 1回に2合以上の飲酒</li> <li>・ 職位が低い（一般職員）</li> <li>・ 交替勤務がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週に3回以上の飲酒</li> <li>・ 1回に2合以上の飲酒</li> <li>・ 主観的な仕事のパフォーマンスが悪い</li> </ul>



※片方を1.00（基準）とした時に、どの程度関連が強いのかを示す（関連オッズ比）

## ■今後の展開

本研究では、2014年と2019年の5年の期間でデータ分析を行いました。問題飲酒を引き起こすまでには、5年よりも長い期間を必要とする可能性があるため、長期的な分析が必要であると考えます。また日本公務員研究は、本年度、第6回目の調査を行っています。コロナ禍で飲酒習慣が変化したともいわれており、データ分析を継続していきます。

## 【用語解説】

### ※1) 問題飲酒

アルコール依存症およびアルコール乱用や有害な飲酒、アルコールに関連した問題や結果を抱えていること、またはそのような問題のリスクがあること。問題飲酒はCAGEスコアを用いて評価しました。具体的には、「今までに酒をやめるべきだと感じたことはあるか」、「あなたの飲酒が批判されて困ったことはあるか」、「自分の飲酒に関して罪悪感を感じたり悪いと感じたことはあるか」、「朝一番(目が覚めた後)、二日酔いや持続的な気分の悪さから飲酒をしたことがあるか」の4項目のうち、2項目以上該当する場合に問題飲酒と定義しました。

### ※2) 日本公務員研究 (Japanese Civil Servants Study: JACS Study)

イギリスのロンドン大学 (Whitehall II Study) とフィンランドのヘルシンキ大学 (Helsinki Health Survey) との国際共同研究であり、公務員を対象としたストレスと健康に関する悉皆調査。1998年より、5年ごとに4000人規模の調査を実施 (今回は第4回目、第5回目の調査を分析)。

## 【論文詳細】

論文名 :

A Longitudinal Study of the Influence of Work Characteristics, Work-family Status, and Social Activities on Problem Drinking: The Japanese Civil Servants Study

著者 :

Takashi Shigeno, Takashi Tatsuse, Michikazu Sekine, Masaaki Yamada

掲載誌 :

Industrial Health

DOI :

<https://doi.org/10.2486/indhealth.2023-0190>

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学学術研究部医学系 成人看護学2 講座

講師 茂野 敬

TEL : 076-415-8856 Email : [shigenot@med.u-toyama.ac.jp](mailto:shigenot@med.u-toyama.ac.jp)

富山大学学術研究部医学系 疫学・健康政策学講座

助教 立瀬剛志

教授 関根道和

TEL : 076-434-7270 FAX : 076-434-5022